

医療用医薬品 市場調査(1)

循環器官用剤、脳疾患治療剤、消化器科疾患治療剤の国内市場を調査

抗凝固剤・ヘパリン製剤：11年412億円（前年比26%増） 新薬発売、初年から実績伸ばす
 炎症性腸疾患治療剤：11年429億円（前年比20%増） 生物学的製剤の処方増を受けて拡大

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、主に医師の診断と処方に基づいて使用される医療用医薬品について、国内市場の動向を2年間にわたって調査する。

このたび、第1回(全6回)として、循環器官用剤(8品目)、脳疾患治療剤(2品目)、消化器科疾患治療剤(11品目)の3薬効領域(計21品目)の市場調査結果を報告書「2012 医療用医薬品データブック No.1」にまとめた。

<調査結果の概要>

1. 循環器官用剤(8品目)

2011年	前年比	2020年予測	20年/11年
1兆3,630億円	102.6%	1兆5,631億円	114.7%

高血圧症治療剤、抗血小板剤・末梢血管拡張剤、狭心症治療剤など8品目を対象とした循環器官用剤市場は、2011年に前年比2.6%増の1兆3,630億円となった。

最も規模が大きく循環器官用剤市場全体の60%以上を占めている高血圧症治療剤は、ARB(アンジオテンシンII受容体阻害剤)で利尿剤やCa拮抗剤との配合剤が相次いで発売されており、拡大の要因となっている。抗凝固剤・ヘパリン製剤は、2011年、2012年に新規作用機序を持つ抗凝固剤が相次いで発売されたことで、実績を大きく伸ばしている。高血圧症治療剤に次いで規模の大きい抗血小板剤・末梢血管拡張剤は、トップブランドが牽引している一方、他の上位ブランドがジェネリック医薬品の発売を受けて伸び悩んでいる。また、狭心症治療剤、不整脈治療剤、心不全治療剤は、新薬の発売が少なく、ジェネリック医薬品の浸透や薬価の引き下げにより、横ばいまたは縮小している。

2020年の循環器官用剤市場は、2011年比14.7%増の1兆5,631億円が予測される。高齢者人口の増加により、多くの循環器疾患において患者数が増加していく見通しである。しかし、患者数の増加が必ずしも各品目の市場拡大に結び付くとは限らず、例えば狭心症治療剤、不整脈治療剤は、ジェネリック医薬品のほか、他剤へのシフトの影響を受け縮小が予測される。

2. 脳疾患治療剤(2品目)

2011年	前年比	2020年予測	20年/11年
560億円	93.2%	395億円	70.5%

脳卒中急性期治療剤、脳卒中慢性期治療剤の2品目を対象とした脳疾患治療剤市場は、2011年に前年比6.8%減の560億円となった。

新薬の発売が少なく市場の製品構成に変化のない状況が続いているため、薬価の引き下げやジェネリック医薬品への切り替えが影響して縮小しており、今後もこの傾向が続く見通しである。2020年の脳疾患治療剤市場は、2011年比29.5%減の395億円が予測される。

3. 消化器科疾患治療剤（11品目）

2011年	前年比	2020年予測	20年/11年
6,076億円	99.9%	6,430億円	105.8%

消化性潰瘍等治療剤、肝疾患治療剤、胃食道逆流症等治療剤など11品目を対象とした消化器科疾患治療剤市場は、2011年に前年比0.1%減の6,076億円となった。

消化器科疾患治療剤市場の過半数を占めている消化性潰瘍等治療剤は、H₂受容体拮抗剤からの切り替えが進むPPI（プロトンポンプ阻害剤）が拡大を牽引してきたものの、対象疾患である胃潰瘍や十二指腸潰瘍の患者数の減少やジェネリック医薬品の発売を受けて縮小している。消化性潰瘍等治療剤に次いで規模の大きい肝疾患治療剤は、対象疾患であるB型肝炎の患者数が増加しているものの、C型肝炎は治療を受け治癒する患者が増えていることから縮小している。一方、炎症性腸疾患治療剤は、対象疾患の患者数の増加や生物学的製剤の適応拡大を要因に拡大している。

2020年の消化器科疾患治療剤市場は、2011年比5.8%増の6,430億円が予測される。胃食道逆流症等治療剤、薬物性潰瘍治療剤、炎症性腸疾患治療剤、過敏性腸症候群治療剤は、それぞれの対象疾患で患者数が増加傾向にあり、成長性の高い市場と言える。

<注目市場>

1. 高血圧症治療剤【循環器用剤】

2011年	前年比	2020年予測	20年/11年
9,051億円	101.7%	9,960億円	110.0%

高血圧症は潜在患者を含め非常に患者数の多い疾患である。また、高齢化に伴って患者数は増加傾向にある。このため、高血圧症治療剤は医療用医薬品市場全体で最も規模が大きく、2011年の市場は前年比1.7%増の9,051億円となった。

高血圧症治療剤市場の拡大を牽引しているARBは、2009年に利尿剤との配合剤、2010年にCa拮抗剤との配合剤がそれぞれ複数の企業から発売されたことで、単剤から配合剤にシフトしつつある。単剤の上位ブランドは実績を減らしており、参入各社は配合剤を含めた品揃えの拡充によって様々な患者ニーズに対応し、ファミリー全体での実績拡大を図っている。一方、これまで高血圧症治療剤の主力であったCa拮抗剤は、ジェネリック医薬品やARBとの配合剤の発売を受けて縮小している。

2020年の高血圧症治療剤市場は、2011年比10.0%増の9,960億円が予測される。今後もARB、特に配合剤が市場を牽引していくと考えられるものの、上位ブランドのジェネリック医薬品の発売が予定されており、その影響も受けるとみられる。

2. 抗凝固剤・ヘパリン製剤【循環器用剤】

2011年	前年比	2020年予測	20年/11年
412億円	126.0%	1,137億円	276.0%

静脈血栓塞栓症は手術における予防が普及しているため患者数は減少傾向にあるが、抗凝固剤は血栓症の治療のほか予防として処方されることが多く、対象疾患の患者数の増減は影響が少ない。

2011年に抗凝固剤の経口剤としてはおよそ半世紀ぶりの新薬となる「プラザキサ」（日本ベーリンガーインゲルハイム）が発売された。初年から大幅に実績を伸ばしたことで、2011年の抗凝固剤・ヘパリン製剤市場は前年比26.0%増の412億円と急伸した。従来の薬剤とは異なり他薬剤や食品との相互作用が少ないことが特徴である。

抗凝固剤では「プラザキサ」に続き「イグザレルト」（バイエル薬品）の2012年4月に発売されており、当面2桁成長が続くと予測される。一方、ヘパリン製剤は、人工透析治療の包括制導入とジェネリック医薬品の浸透により伸び悩んでおり、今後も同様の傾向が続く見通しである。2020年の抗凝固剤・ヘパリン製剤市場は、2011年比2.8倍の1,137億円が予測される。

3. 炎症性腸疾患治療剤【消化器科疾患治療剤】

2011年	前年比	2020年予測	20年/11年
429億円	120.2%	733億円	170.9%

潰瘍性大腸炎、クローン病の治療剤を対象としている。両疾患とも患者数は多くないものの、近年増加している。

5 - A S A 製剤や副腎皮質ステロイド局所製剤による治療が行われてきたが、生物学的製剤の適応拡大により、薬物療法だけでなく手術などを含めて治療方法が進展している。

薬価の高い生物学的製剤の処方が増えていることから、近年の炎症性腸疾患治療剤市場は2桁成長が続いている。2011年は前年比20.2%増の429億円となった。

患者数の増加と生物学的製剤の新たな適応拡大を背景に、今後も炎症性腸疾患治療剤市場は拡大していく見通しである。また、第一選択薬として5 - A S A 製剤の位置付けも変化がないと考えられる。一方でジェネリック医薬品への切り替えも進むとみられる。2020年の市場は2011年比70.9%増の733億円が予測される。

< 調査対象 >

循環器官用剤
高血圧症治療剤、心不全治療剤、不整脈治療剤、狭心症治療剤、抗凝固剤・ヘパリン製剤、抗血小板剤・末梢血管拡張剤、腰部脊柱管狭窄症治療剤、肺高血圧症治療剤
脳疾患治療剤
脳卒中急性期治療剤、脳卒中慢性期治療剤
消化器科疾患治療剤
消化性潰瘍等治療剤、胃食道逆流症等治療剤、薬物性潰瘍治療剤、H.pylori関連剤、炎症性腸疾患治療剤、過敏性腸症候群治療剤、腸疾患治療剤、下剤等下部消化管治療剤、肝疾患治療剤、膵疾患治療剤、胆道疾患治療剤

< 調査方法 >

富士経済専門調査員による調査対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査

< 調査期間 >

2012年1月～3月

以上

資料タイトル	: 「2012 医療用医薬品データブック No.1」
体裁	: A4判 346頁
価格	: 170,000円 (税込み178,500円) 書籍・電子版セット 190,000円 (税込み199,500円)
調査・編集	: 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発行所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2 - 5 F・Kビル TEL:03-3664-5811(代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/